

基本評価シート

様式

(福岡県 環境部自然環境課)

## 1. 事業の基本情報

事業名 (※1)	令和3年度福岡県指定管理鳥獣捕獲等事業 (第1工区) 委託業務		
	令和3年度福岡県指定管理鳥獣捕獲等事業 (第2工区) 委託業務		
	福岡県指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画基礎調査及び評価業務		
都道府県名	福岡県	担当者部・係名	環境部自然環境課野生生物係
担当者名	加藤、小柳	担当者連絡先	092-643-3367
捕獲実施事業者	・一般社団法人福岡県 猟友会 ・株式会社九州自然環 境研究所 (認定を受けている)	予算額 (※2)	31,175,000 円
		予算額の内捕獲に要する経費 (※3)	26,175,000 円

(※1) 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

(※2) 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

(※3) 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

### ○令和3年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み 〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
第1工区 70頭	第1工区 70頭	第1工区 100.0%
第2工区 250頭	第2工区 264頭	第2工区 105.6%
合計 320頭	合計 334頭	合計 104.4%

### 〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
1,000頭(中央値)	5頭/km <sup>2</sup>	360頭
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
メッシュ毎に集計するため 算出不能	0頭	0頭

○これまでの個体群管理の取組み（都道府県単独事業）

福岡県のシカの生息数は、平成 26 年度末で 25,300 頭と推定されており、生息数の増加、生息域の拡大に伴い農林業被害、生態系被害が深刻化している。

このため、本県では「福岡県第二種特定鳥獣（シカ）管理計画」（以下「特定計画」という。）を策定し、狩猟期間の延長やくくりわなの規制緩和等により狩猟や有害鳥獣捕獲によるニホンジカの捕獲を推進した。この結果、平成 23 年度には 3,914 頭であった捕獲数が平成 27 年度には 9,557 頭に増加した。

しかし、耶馬日田英彦山国定公園地域においては、英彦山や犬ヶ岳が霊山として信仰されてきたことや、登山者や観光客が多く、狩猟の実施が困難であることなどからシカの管理捕獲が進んでいない。

## 2. 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	<p>記述欄：</p> <p>特定計画においては、国立公園の英彦山及び犬ヶ岳のシカの適正生息密度を5頭/km<sup>2</sup>としている。</p> <p>しかし、英彦山及び犬ヶ岳地区では、その急峻な地形や古くから霊山として信仰の対象とされてきたことからシカの管理捕獲は進んでおらず、平成27年度末の生息密度（上限値）は平均で24.8頭/km<sup>2</sup>、最も高い区域では53.1頭/km<sup>2</sup>に達している。増えすぎたシカの採食圧により、多くの絶滅危惧種が個体数を減らし、絶滅の危険性が增大している。</p> <p>このため、当該地区を特定計画に掲げる「捕獲を特に強化する必要がある地域」に位置づけ、貴重な生態系の保全を目的に、指定管理鳥獣捕獲等事業によるシカの管理捕獲を行う。</p> <p>※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置づけも記載する。</p> <p><b>【選択欄】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。</p> <p><input type="checkbox"/> 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。</p> <p><input type="checkbox"/> 効果的な捕獲手法の開発を行なった。</p> <p>※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。</p>
人材育成の観点	<p><input checked="" type="checkbox"/> 人材を育成するための配慮、取組がなされている。</p>
実施期間	<p>令和3年4月1日～令和4年3月31日</p> <p>（捕獲期間 令和3年5月1日～令和4年2月20日）</p>
実施区域	<p>耶馬日田英彦山国定公園特別地域及びその周辺</p> <p>福岡県と大分県との県境に連なる山地で、浸食された集塊岩質安山岩による複雑な地形である。登山客や観光客が多く、古くから霊山として信仰されており、地形が急峻である等の理由によりシカの管理捕獲が十分に行われていない。</p> <p>※1：実施区域の特徴も記入</p> <p>※2：事業計画の地図がある場合は、図面を添付</p>
関係機関との協力	<p>関係する6市町村、福岡森林管理署、県研究機関と事業実施計画検討会を開催し、事業実施結果の把握、評価及び改善を実施した。</p>

事業の捕獲目標	(104.4%達成) = ( 334 頭 実績値) / ( 320 頭 目標値)
捕獲手法	<p><b>【銃猟】</b></p> <p><input type="checkbox"/> 誘引狙撃                      <input type="checkbox"/> 巻き狩り            <input type="checkbox"/> 忍び猟</p> <p><input type="checkbox"/> モバイルカリング            <input type="checkbox"/> 夜間銃猟</p> <p><input type="checkbox"/> その他 (                      )</p> <p><b>【わな猟】</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> くくりわな                      <input type="checkbox"/> 箱わな            <input type="checkbox"/> 囲いわな</p> <p><input type="checkbox"/> その他 (                      )</p> <p>※1：各種猟法の定義は○ページ参照、※2：複数チェック可</p>
捕獲個体の確認方法	<p><input checked="" type="checkbox"/> 個体の身体の一部（耳、尾など）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 写真（詳細を記載：個体番号を捕獲した個体の胴体にスプレーで記載するとともに、両耳と尻尾をスプレーで着色し、記載内容及び着色の状態が明確である写真を撮影した。胴体への記載が困難な場合は、必要事項を記入した用紙を入れて撮影した。）</p> <p><input type="checkbox"/> その他 (                      )</p> <p>※複数チェック可。</p>
捕獲個体の処分	<p>捕獲個体の処分について</p> <p><input type="checkbox"/> 全て焼却又は埋設を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一部、食肉等への活用を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部、放置を認めている。</p> <p>※複数チェック可</p>
環境への影響への配慮	<p>わなによる錯誤捕獲について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の情報を収集している。</p> <p><input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の実態は不明である。</p>
	<p>わなによる錯誤捕獲の未然防止について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策をしている。</p> <p>（内容：輪番移動式捕獲法を実践することで錯誤捕獲を低減している。また、中型獣の錯誤捕獲対策として、くくりわな作動の荷重調整を実施している。）</p> <p><input type="checkbox"/> 錯誤捕獲の防止対策はしていない。</p>
	<p>鳥類の鉛中毒等について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例がない。</p> <p><input type="checkbox"/> 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。</p>

	<p>鉛製銃弾について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 全て鉛製銃弾を使用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部、非鉛製銃弾を使用している。</p> <p><input type="checkbox"/> 全て非鉛製銃弾を使用している。</p> <p>※捕獲個体への近接が危険な場合に限り、止めさしの手法として銃器の使用を認めている。今年度は銃器を用いて2頭止めさしを行ったが、捕獲個体は回収し、自家消費した。</p>
<p>安全管理の体制</p>	<p>安全管理規定を順守し、捕獲従事者及び地域住民の安全確保、危険回避を徹底。作業開始前、終了時には県に連絡を実施。緊急時の連絡体制はあらかじめ定めて実施。</p>
<p>捕獲従事者の体制</p>	<p><b>【雇用体制】</b></p> <p>捕獲従事者数： 30 人</p> <p>(内訳)</p> <p>正規雇用者： 9 人 期間雇用者： 人 日当制： 21 人</p>

### 3. 令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点*	
【目標達成】	<p>評価：評価：＜第1工区＞捕獲目標達成率は100.0%（目標70頭に対して、捕獲数70頭）で、目標を達成した。</p> <p>＜第2工区＞捕獲目標達成率は105.6%（目標250頭に対して、捕獲数264頭）で、目標を達成した。</p>
	<p>改善点：＜第1工区＞当工区の糞塊密度調査では、令和2年度より糞塊密度は減少傾向を示したが、カメラトラップ調査では、撮影頻度の平均が増加していることから、現時点ではシカの生息密度が減少しているとは判断できない。また、植生の回復は見られない状況であるため、引き続き捕獲を実施する必要がある。</p> <p>＜第2工区＞</p> <p>当工区では、糞塊調査及びカメラトラップ調査の結果ともに減少傾向を示したことから、生息密度は減少している可能性が考えられるが、植生の回復はみられないことから、引き続き捕獲を実施する必要がある。</p>
【実施期間】	<p>評価：捕獲適期である5月から管理捕獲を実施できたことから、両工区とも捕獲目標を達成することができ、管理捕獲の実施期間については概ね妥当であったといえる。ただし、高標高地では、冬季に入ると気温が下がり、道路網や地面、くくり罠等の凍結するため、シカ1頭を捕獲し、搬出、埋設する労力が大きくなり過ぎる。</p>
	<p>改善点：高標高地では、晩秋季（11月頃）までに管理捕獲を終了させることが望ましい。</p>
【実施区域】	<p>評価：＜第1工区＞耶馬日田英彦山国定公園の範囲の内、みやこ町、築上町、豊前市、上毛町に該当する範囲を管理捕獲実施区域とし、道路、林道沿いで管理捕獲が実施された。シカの捕獲位置は工区東側に偏っている。</p> <p>＜第2工区＞耶馬日田英彦山国定公園の内、第1工区以外の範囲及びみやこ町の一部を管理捕獲実施区域とした。東峰村に該当する区域は本年度も災害復旧工事のため、管理捕獲を実施していない。また、本年度は、捕獲目標頭数を増やしたことから、これまで本事業では捕獲を行っていなかった集落周辺にも捕獲場所を拡大した。</p>
	<p>改善点：＜第1工区＞捕獲位置が工区東側に偏っており、カメラトラップ調査でシカの撮影頻度の高かった工区西側の集落周辺等では捕獲がない状況であった。効率的に管理捕獲を進めるために、管理捕獲</p>

	<p>実施範囲の拡大や、管理捕獲を実施しているにもかかわらず捕獲が全くない地域での管理捕獲を重点的に実施していくことが必要である。</p> <p>&lt;第2工区&gt;カメラトラップ調査から高標高地で撮影頻度の高い傾向が見られた。引き続き、高標高地周辺に生息するシカの管理捕獲を実施するとともに、英彦山南側の高標高地にあたる東峰村においても、災害復旧が完了した地域等あれば実施範囲を拡大していくことが望まれる。</p>
<p><b>【捕獲手法】</b></p>	<p>評価：高標高地周辺では、登山客や観光客が多いことから、銃猟は行わず、くくりわなによる管理捕獲を実施し、特段問題なく、管理捕獲を遂行することができた。</p> <p>&lt;第1工区&gt;捕獲効率は一般的なくくりわなの捕獲効率(0.01※)より低い値(0.007)であった。指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲は、高度な捕獲技術が求められるため、捕獲方法の改善が必要である。</p> <p>&lt;第2工区&gt;一般的なくくりわなの捕獲効率(0.01※)と比較すると3倍もの高い捕獲効率(0.032)であった。</p> <p>※九州森林管理局(2013)</p> <p>改善点：引き続き、くくりわなによる管理捕獲を実施する。</p> <p>捕獲事業開始から6年が経過したことで、わなに対して警戒心の高いスレジカが発生し、年々シカの捕獲が難しい状況となっている。スレジカの発生を抑えるために、シカの生息状況に合わせて、こまめにわなを移設したり、適当な捕獲休止期間を設定する等、捕獲圧をコントロールし、効果的に捕獲を行う必要がある。</p> <p>&lt;第1工区&gt;一般的な捕獲効率より低いため、高度な捕獲技術が求められる本事業では、より捕獲効率を高める必要がある。シカの管理捕獲の専門家による現地指導や研修会等を実施し、捕獲従事者の技術の底上げが重要課題である。</p> <p>また、本年度の当工区での捕獲数における幼獣率は0%であり、捕獲個体の情報取得についても見誤りが起きている可能性もあるため、今後の精度向上が課題である。</p> <p>&lt;第2工区&gt;令和2年度より捕獲効率は低下したが、依然として高い捕獲効率を達成しており、捕獲方法に全く問題はない。</p>



2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：事業実施区域内を第1工区、第2工区に分割して委託することで、2工区同時に捕獲を実施することができ、管理捕獲頭数を確保することができた。
	改善点：引き続き、2工区に分割して委託することで、事業受託者への負担の軽減を図り、捕獲目標の達成を目指す。
【個体処分】	評価：事業実施区域周辺に予め掘削した埋設穴への一括埋設を行い、捕獲個体ごとの埋設処理作業を効率化した。さらに、自家消費、食肉処理施設への引き渡しを増やすことにより、シカ肉の有効利活用が実施された。
	改善点：引き続き、一括埋設による捕獲個体の処理作業の効率化を図る。また、自家消費や食肉処理施設への引き渡しを積極的に行い、地元自治体や食肉処理施設と協力、連携した、地域資源としての利活用を目指す。
【環境配慮】	評価：捕獲個体は埋設及び食肉利用を行い、個体の放置はしていないことから、環境へ影響はなかった。
	改善点：引き続き、捕獲個体の放置は行わず、適切に埋設等を行うことで、環境への影響に配慮する。
【安全管理】	評価：捕獲作業の周知、注意喚起看板の設置等、安全管理規定を順守した捕獲作業を実施することで、捕獲従事者及び地域住民への安全確保及び危険回避が徹底された。
	改善点：引き続き、安全管理規定を順守し、捕獲従事者及び地域住民の安全確保及び危険回避を徹底する。
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
<p>評価：事業実施区域は霊山として知られ、信仰の対象となっていることから、シカの捕獲個体への止めさし、その後の搬出及び埋設等の作業は、参拝者や周辺住民へ不安を与え事業継続に影響が生じないよう細心の配慮を行った。また、事業実施にあたっては、事業実施区域周辺で活動する地元の狩猟団体等と調整し、地元狩猟者と情報共有を行い事故防止に努めた。特に九州一斉捕獲実施期間中は、くくりわなの稼働を一旦停止するなど事故防止に努めた。</p> <p>改善点：引き続き、地域住民や地元狩猟者等に十分な配慮を行うとともに、地元区長や鳥獣保護管理員への連絡を徹底することで、地域との関係に問題を生じさせないように、また事故防止に努める。</p>	

#### 4. 全体評価

＜第1工区＞管理捕獲目標は達成したものの、捕獲効率が一般的なくくりわなの捕獲効率(0.01)より低かったことから、より捕獲効率の向上を目的とした技術の底上げが重要課題である。また、捕獲個体情報の取得についても、成獣幼獣、雌雄等の情報に見誤りがある可能性があるため、今後の精度向上が課題である。捕獲作業面では適切な実施体制のもとで事故なく目標を達成できた。

＜第2工区＞昨年度の調査結果等を踏まえ、今年度は昨年度よりも捕獲目標頭数を高く設定した。管理捕獲目標は達成したものの、国定公園区域内だけで捕獲目標数を確保することは難しく、国定公園の辺縁部に位置する集落周辺部(低標高地)にも捕獲範囲を拡大した。その結果、糞塊密度、センサーカメラの撮影頻度ともに、昨年度と比較して減少傾向を示し、捕獲の効果が見られたものと評価できる。しかし、低標高地での捕獲数が全体の4分の1を占めたことから、捕獲目標頭数が高すぎたと考えられる。今後、より適当な調査手法や生息密度推定の方法を検討し、実態に即した捕獲目標頭数の設定を行うことが望ましい。捕獲作業面では、適切な実施体制の下で、大きな事故は無く、管理目標を達成できた。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

#### ○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

事業実施区域は、特定計画のなかで「犬鳴・英彦山地域」の「保護区域」に区分されている。当地域は広域、連続的にまとまった分布域で、農林産物被害が増大している地域であることから、特定計画に掲げる「捕獲を特に強化する必要がある地域」と位置付け、指定管理鳥獣捕獲等事業によるシカの管理捕獲を行い、個体管理の目標生息密度5頭/km<sup>2</sup>の達成を目指している。また、事業実施区域は、古くから霊山として信仰の対象になっており、登山客や観光客が多く訪れることから銃猟の実施が困難であり、これまで捕獲が進んでこなかった地域でもある。その地域において、今年度は捕獲目標の104.4%となる334頭を捕獲していることから、特定計画の目標達成に寄与しているものと考えられる。

#### 4. 必須となる記録項目

##### (1) データの整備状況

##### ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	<input type="checkbox"/> 行政区域（都道府県・市町村）ごと <input type="checkbox"/> 事業区域ごと <input type="checkbox"/> 5 km メッシュ <input type="checkbox"/> 1 km メッシュ <input checked="" type="checkbox"/> 捕獲地点（緯度経度） <input type="checkbox"/> 捕獲等に関する位置を記録していない	
②捕獲数	<input checked="" type="checkbox"/> 捕獲した個体の総数 <input checked="" type="checkbox"/> 雌雄の別 <input checked="" type="checkbox"/> 幼獣・成獣の別 <input checked="" type="checkbox"/> その他捕獲した個体に関する情報（全長、体重、推定年齢）	
③目撃数	<input checked="" type="checkbox"/> 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	<input type="checkbox"/> 銃猟：のべ作業人日数※ <input checked="" type="checkbox"/> わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※のべ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

##### イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図（地図）※についてチェック
捕獲位置の地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input checked="" type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> 捕獲位置の地図を作成できない
CPUEの地図	<input checked="" type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input type="checkbox"/> CPUEの地図を作成できない
SPUEの地図	<input type="checkbox"/> 5 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 1 kmメッシュ地図 <input type="checkbox"/> 地点（緯度経度）地図 <input checked="" type="checkbox"/> SPUEの地図を作成できない
概況図を作成する上での課題	CPUEの地図について、捕獲効率で実施地域の比較や変化を確認するには、より詳細な1 kmメッシュ地図を用いる必要がある。 SPUEの地図作成については、シカのみ情報を収集しているため地図が作成できない。目撃位置情報も収集する必要がある。

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果 (必須となる記録項目)

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数<sup>※1</sup>: \_\_\_\_\_ 人日

事前調査人日数概数<sup>※2</sup>: \_\_\_\_\_ 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: \_\_\_\_\_ 人日

項目	令和 年 (事業年度の値)	令和 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (銃猟) のべ人日数	人日	人日	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲

外業の人日数総数<sup>※1</sup>: \_\_\_\_\_ 911 人日

事前調査人日数概数<sup>※2</sup>: \_\_\_\_\_ 16 人日

出猟 (捕獲作業) 人日数: \_\_\_\_\_ 895 人日

項目	令和 3 年 (事業年度の値)	令和 2 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量 (わな猟) わなの稼働総数 (わな基×日数)	18,520 基日	14,972 基日	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:事前調査人日数概数と出猟 (捕獲作業) 人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和 年 (事業年度の値)	令和 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②目撃数	頭	頭	<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)			<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 <sup>※1</sup>	CPUE <sup>※2</sup>	SPUE <sup>※3</sup>
<input type="checkbox"/> 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 巻き狩り	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 忍び猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> モバイルカリング	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 夜間銃猟	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	人日	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少	頭/人日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項目	令和 3 年 (事業年度の値)	令和 2 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	334 頭	278 頭	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0.584	0.536	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0.21	0.22	<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少

令和3年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数 <sup>※1</sup>	CPUE <sup>※2</sup>
<input checked="" type="checkbox"/> くくりわな	334 頭	18,520 基日	0.018 頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 箱わな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> 囲いわな	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少
<input type="checkbox"/> その他 ( )	頭	基日	頭/基日 <input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 減少

※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※2:CPUE=捕獲数/わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 592 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： 76 個体

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

個体番号を捕獲した個体の胴体にスプレーで記載するとともに、両耳と尻尾をスプレーで着色し、記載内容及び着色の状態が明確である写真を撮影する。また、埋設の様子の写真を個体番号が判別できる形で撮影する。捕獲地点を移動後に速やかに報告する。

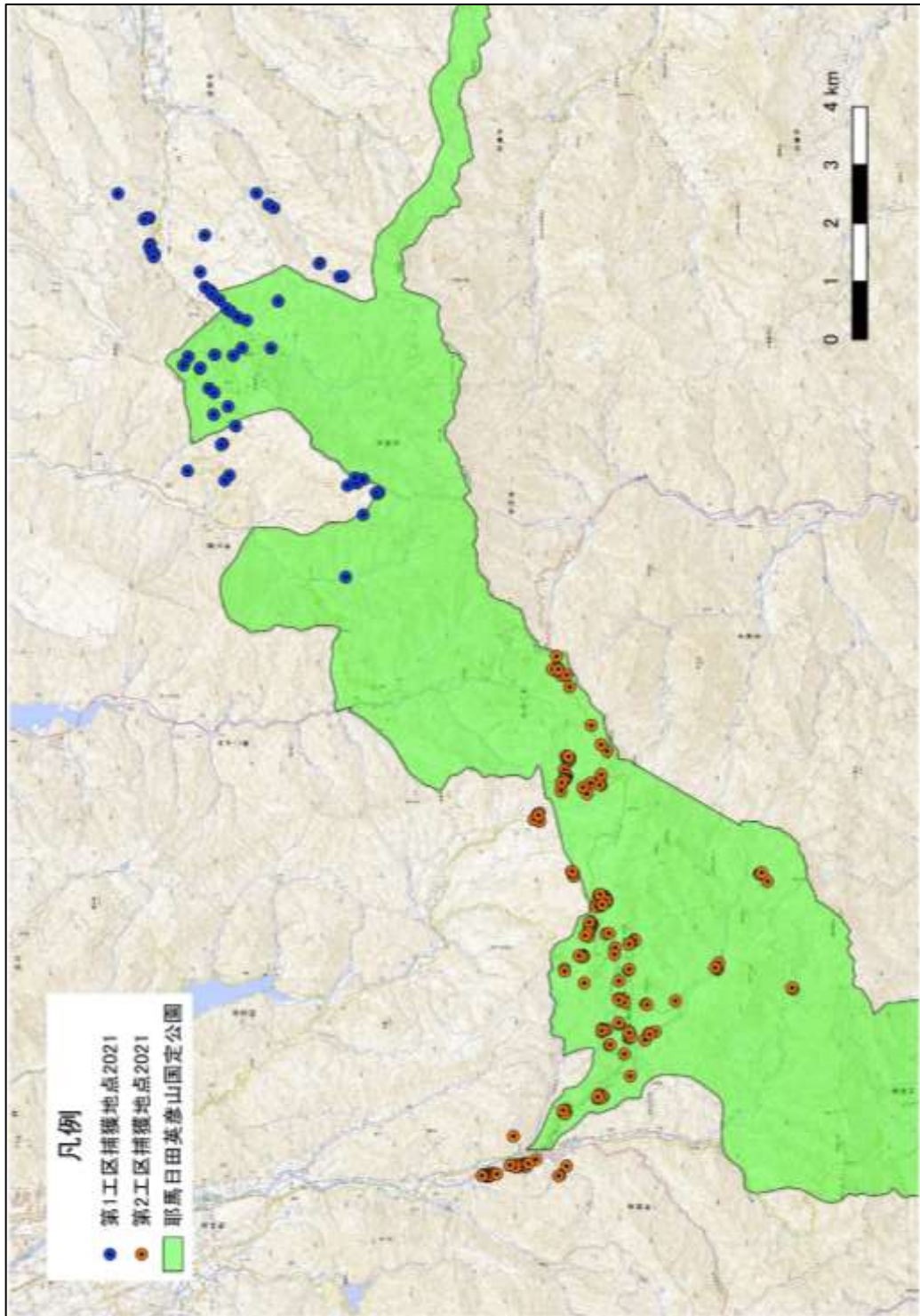


図1 令和3年度シカ捕獲位置



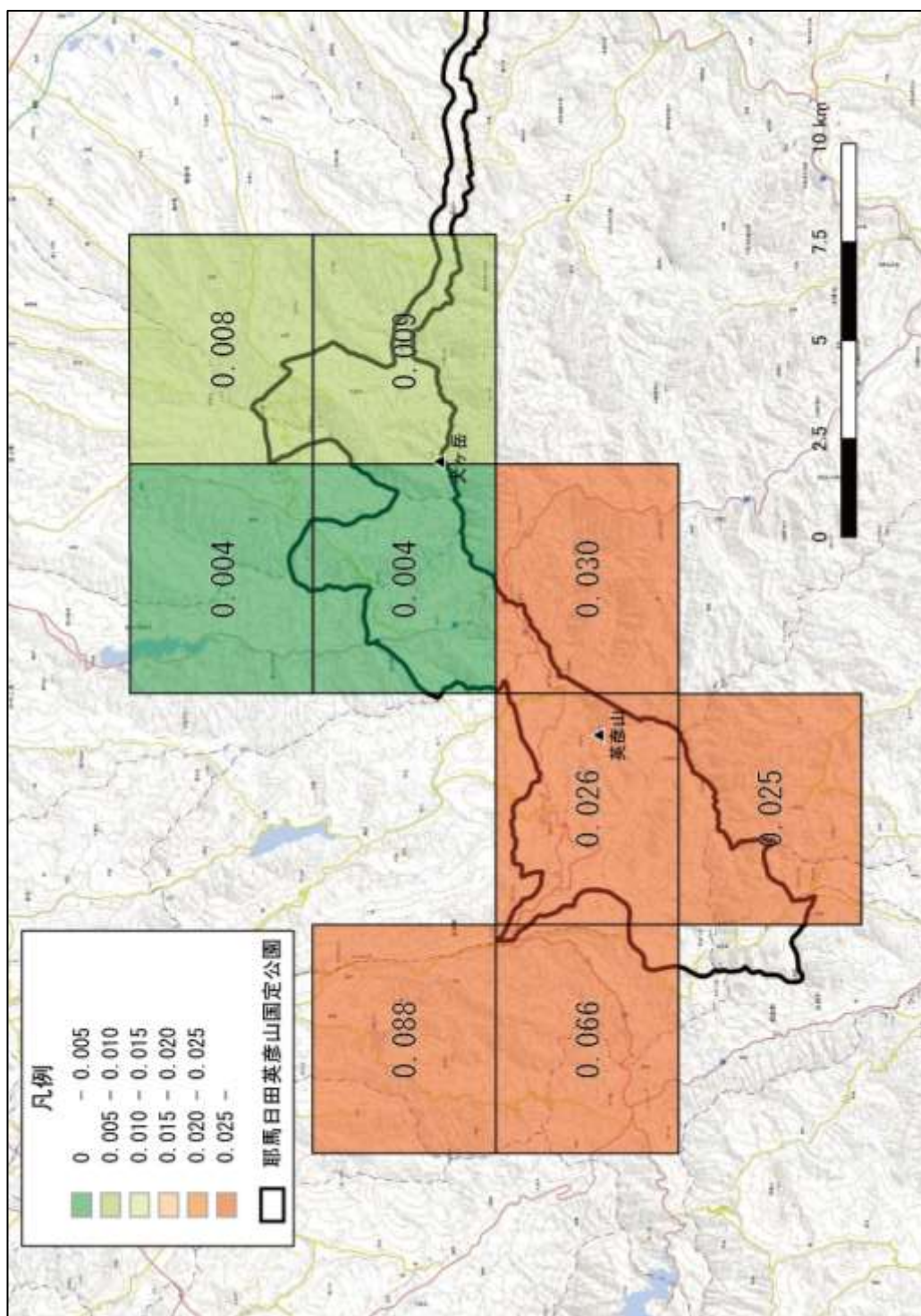


図2 狩猟メッシュごとの捕獲効率